

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人香川大学

1 全体評価

香川大学は、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献する。」ことを理念としている。第3期中期目標期間においては、地域社会の課題解決に資する教育・研究等の実績を基に、地域活性化の中核的拠点としての機能強化を目指すとともに、特定の分野においては、世界ないし全国的な教育研究を目指すことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、民間企業の集合社宅借り上げに伴う学生（留学生）宿舎の確保を行うなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 若い世代の地元定着増加に資するとともに、地域の産業界からの人材養成に関わる要望に応えるなど、地域活性化の中核的拠点としての大学の機能強化に向けて、地域活性化に貢献する建築デザイン、文化芸術、観光、防災・危機管理といった分野での人材育成を推進する全学改革構想を作成し、構想実現のため、創造工学部の設置、医学部臨床心理学科の設置、経済学部の改組、農学研究科の改組を平成30年4月に行うこととしている。（ユニット「地域からの要望を踏まえた教育研究組織の見直し」に関する取組）
- 学部・センター等が開講している英語による授業科目を、広く全学学生が履修できる仕組みを検討し、留学生センターが開講している留学生対象科目「プロジェクトさぬき」を全学共通科目の主題科目として日本人学生も受講できるように方針を定めており、平成29年度は、年間受講者数164名のうち、日本人学生が110名で約7割を占めている。これらの結果を踏まえ、今後は、教育学部開設科目「異文化間コミュニケーション論」を全学共通科目として履修できる制度を整えることとしている。（ユニット「グローバル人材の育成」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○入学者選抜における業務上のミス

平成30年度一般入試(後期日程)において、追加合格者への連絡の過程で業務上のミスがあったことから、チェック体制の見直し等、再発防止に向けた組織的な取組を引き続き実施することが望まれる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善 ④予算編成の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 民間企業の集合社宅借りに伴う学生（留学生）宿舎の確保

グローバル化推進にあたって不足していた留学生宿舎について、民間会社所有の集合社宅を活用した賃貸借契約を平成28年1月に締結しており、保有面積を増やさず、施設整備による事業費も投資しなかったため、イニシャル・ランニングのコストの低減につながっており、平成29年度は入居率が88.4%（前年度42.9%）と増加し、入居者が488名（月当たり入居延べ人数（12カ月入居で12名と計算））と前年度の247名から大幅に増加している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 「幅広い学び」のためのカリキュラム改革

幅の広い学びの機会を学生に提供するため、クォーター制を全学共通科目の中で教育効果の向上が見込める科目群で実施するとともに、文系科目と理系科目を必ず一定単位以上取得することを課す文理融合を促す履修方法の変更をしたほか、全学共通科目に「高度教養教育科目」群及び「広範教養教育科目」群を開講し266名が受講しており、受講した学生による授業評価において高い評価が得られている。

○ ICTを活用した特別支援教育の取組

富士通株式会社との産学共同研究「ともに学ぶプロジェクト」において、コミュニケーション支援ソフト「きもち日記」を開発し、平成29年度に、「きもち日記」を製品化し、特許を取得しており、本取組が、「IAUD（International Association for Universal Design）アワード2017」（主催：国際ユニヴァーサルデザイン協議会）の金賞を、香川県教育委員会、小豆島町教育委員会、富士通株式会社、富士通デザイン株式会社とともに受賞している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ かがわ遠隔医療ネットワークの更なる発展

K-MIX（かがわ遠隔医療ネットワーク）を海外展開するため、当該システムを英語とタイ語に対応するようシステム開発を行っており、これまで築き上げた特色ある遠隔医療ネットワークの研究成果を国際医療にも発展させている。

（診療面）

○ 脳卒中・がんの高度診療体制の整備

急性期重症脳卒中医療を充実させるため地域の医療機関からの照会に24時間365日対応可能な脳卒中ホットラインを開設、また、都道府県がん診療連携拠点病院として、集学的がん医療の更なる充実を図るため、がん検診・診断部門、ゲノム診療部門、がん放射線治療部門等の12部門からなる「香川大学医学部附属病院がんセンター」を設置するなど、地域の中核医療機関として高度な医療提供体制を整備している。

（運営面）

○ 「総合地域医療連携センター」への発展的改組

メディカルサポートセンターにおいて、外来受診（入院決定時）から入院時及び退院後の生活全体を視野に入れ、多職種協働でリスクへの早期介入アプローチの実践や、14診療科の入院予約患者の間診聴取・プロフィール入力等の一元的な支援に取り組み、次年度よりベッドコントロール・メディカルサポート・入退院受付・地域連携の4部門から構成される「香川大学医学部附属病院総合地域医療連携センター」の発展的改組につなげている。